

「意欲的に生活を創り出し実践していく子どもの育成」

～国語科「話すこと・聞くこと」の授業づくりの工夫をとおして～

I 研究の内容

1 研究目標

国語科の「話すこと・聞くこと」において、基礎・基本の定着を目指した授業づくりを工夫することによって、子どもたちの国語力の向上を図る。

2 研究の具体的内容と方法

- (1) 国語科に対する児童の実態を調査し、課題を明らかにする。
- (2) 講師を招聘しての理論研究や先進校の実践・文献から研究していく。
- (3) 評価規準をもとに「それぞれの学年でどのような力を育てるのか」を明確にするとともに、指導方法を研究し、授業研究によって検証する。
- (4) 読書に親しむ態度を育成するための取り組みや学校図書館を活用した読書活動の推進。
- (5) 年間指導計画の見直し。
- (6) 一人一実践を公開し、教師としての力量を高める。

3 具体的実践

(1) 理論研究

ア 『話すこと・聞くこと』の指導について

講師： 峽東教育事務所指導主事 泉 久功先生

イ 『話すこと・聞くこと』の指導について

講師： 笛吹き市浅川中学校教頭 佐藤 喜美子先生

(2) 実態調査の実施

ア 5月CRT検査の実施及び第1回目のアンケート調査実施

イ 1月第2回目のアンケート調査実施(子どもの変容から見る成果と課題)

(3) 各研究ブロックの目指す子ども像と検証授業

低学年	分かりやすく話すことができる子ども 大事なことを落とさないように聞くことができる子ども
中学年	自分の思いや考えをもち、話を正しく聞き取り、話し言葉で適切に表現できる子ども
高学年	自分の思いや考えを工夫して、話すことのできる子ども 話し手の意図を考え、尊重しながら聞く子ども
特別支援	コミュニケーションの有用性を実感し、意欲的に人とのやりとりをする子ども

ア 低学年ブロック 1年3組 授業者 鈴木 百合子

教材名 「わたしはなんでしょう」(光村図書「ともだち」1年下)

指導・助言： 山梨県総合教育センター研修主事 宇野 誠先生

イ 中学年ブロック 3年2組 授業者 齊藤 恵子

教材名 『分類』ということ (光村図書「あおぞら」3年上)

指導・助言： 峽東教育事務所指導主事 泉 久功先生

ウ 高学年ブロック 5年1組 授業者 深澤 真人

教材名 「人と『もの』との付き合い方」(光村図書「銀河」5年上)

指導・助言： 峽東教育事務所主幹指導主事 成澤 宗克先生

エ 特別支援ブロック わかくさ学級 自立活動 授業者 板谷 理恵

教材名 「伝える・選ぶ・遊ぶ」

指導・助言： 帝京学園短期大学保育科専任講師 榊原 剛先生

